

議 会 報 告 第 26 号

(ホームページもご覧下さい <http://www.ojima-shinichi.com/>)

筑西市下野殿 801-1 TEL0296 (24) 8951



市議会議員 小島 信一

明政会

9月定例会より 報告 (29年第3回定例会)

29年10月10日発行

決 算 —— 昨年から一転悪化
 実質単年度収支が
 マイナス
 経常収支比率が
 異常高



一般会計 (カッコ内は27年度の数字)

歳入	歳出	実質収支
445億円	424億円	20億6千万円
(437億円)	(408億円)	(26億1千万円)

注：実質収支は〔歳入 - 歳出 - 翌年度に繰り越す財源〕

歳入で主なものは

地方税	146億円 (156億円)	市民税等
地方交付税	73億円 (87億円)	国からの交付金
地方消費税	16億円 (18億円)	消費税地方分
繰入金	19億円 (4億円)	基金の取り崩し
地方債	44億円 (37億円)	借入金

歳出・・・目的別

総務費	65億円 (58億円)	各庁舎維持管理費、新庁舎 建築費 一般事務費、車両・公用車運航費
民生費	140億円 (134億円)	生活困窮者支援、障害者 福祉サービス給付、地域生活支援、
教育費	46億円 (46億円)	学校用パソコンシステム、 各学校運営費、校舎設備、校舎改修費、幼稚園補助
衛生費	56億円 (41億円)	予防接種、成人検診、市民 病院支援、新中核病院建設費、ごみ・し尿処理
土木費	37億円 (35億円)	道路維持補修、道路新設、橋 梁補修改修、区画整理事業、市営住宅、

歳出・・・性質別

人件費	60億円 (60億円)
公債費	46億円 (45億円) 借入金の返済金 (年額)
建設費	52億円 (43億円) 公共施設の建設費

主な財政指標

財政力指数	0.684	(0.694)
経常収支比率	95.8	(83.0)
単年度収支	△5億5千万円	(6億8千万円)
実質単年度収支	△18億円	(16億円)
積立金現在高	93億円	(109億円)
地方債残高	407億円	(406億円)



用語解説

財政力指数・・・財政収入÷財政需要。1以下の自治体に
 地方交付金を交付。大きいほど良い。

経常収支比率・・・財政の弾力性。80%程度が理想。低いほ
 うが良い。茨城県平均88.9%、全国92.0%
 最下段◎参照

単年度収支・・・当年度実質収支 - 前年度実質収支

実質単年度収支

単年度収支 + 基金積立金 - 基金取り崩し金
 赤字が連続すると財政運営に支障が出る

地方債・・・歳入における借入金

◎決算悪化の要因は税収不足

市民税収が12億円減、地方交付税が13億円減
 一方、扶助費、補助費が増。結果として歳入が不足し基
 金を取り崩した。

今後も病院建設、道の駅建設と大規模工事が続くので起
 債の増加が予想され予断はゆるされない

◎経常収支比率が合併以来最悪の数字。

一般財源(使途が自由)がほとんど経常経費に回ってしま
 い、政策的経費が捻出できない。独自施策に影響。

道の駅整備の進捗

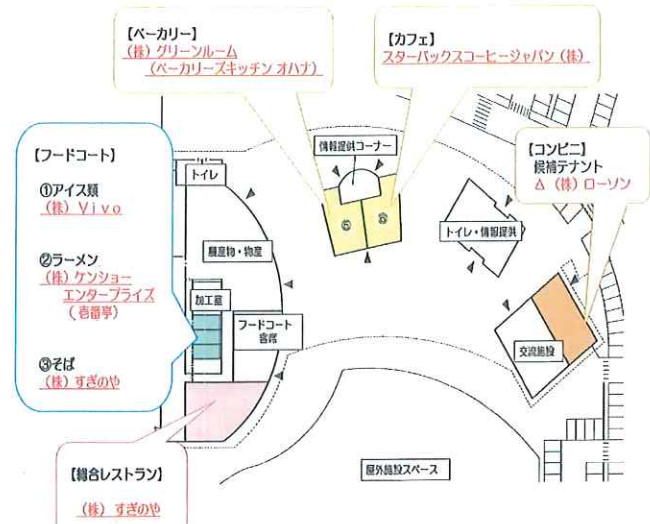
◎テナントが決定（コンビニは協議中）

- ・スターバックスコーヒーは道の駅では全国初。早朝から深夜の営業で幅広い客層に支持される
- ・総合レストランは「すぎのや」夜9時まで営業ファミリー客の夕食も狙える。
- ・地元資本の「吉番亭」—— 固定客が見込める
- ・ベーカリーズキッチン、アイスのVivo

これだけでも客が呼べそうです。

テナントエリア選定結果

2017/8/8現在



定例会の話題

◎MRIの入札購入（1億4400万円）が可決

第2回定例会で否決（1億9000万円）された案件ですが、仕切り直して4600万円程節約出来ました。

◎筑西市の地酒等で乾杯を推進する条例

市は地酒等による乾杯とその普及の促進に努める。

◎農業委員会の委員選出が選挙から任命へ移行（農委法）

これまで公選制でしたが、来年度から市長による任命制となります。但し、地元農業者団体等の推薦と公募があり、市長はこれを尊重します。

◎新たに農地利用最適化推進委員（農委法）

農業委員の任命制と推進委員制は、農業委員会の役割強化を求めています。「農業経営の規模拡大」「耕作放棄地の解消」「新規参入の促進」の3つが位置付けされた。

◎関城地区の保健センター移転

老朽化に伴い関城支所内に移転することになりました。

◎子育て支援コンシェルジュを子供課に1名配置

.....

第1回臨時議会の話題

◎衆議院選挙に関する筑西市分予算・・・6300万円

・人件費が3200万円

一般質問

市長の政治姿勢—新知事・新県政への対応について

小島質問：新知事による新県政がスタートした。新知事のインフラ整備に関する政策公約と我が筑西市のこれまでの要望との整合性をどう考えるか

市長答弁：50号線に関しては隣接4市で構成する期成同盟で今まで以上に県と連携を図りながら国交省関東整備局へ整備要望を続けたい。

筑西幹線道については、ルート未決定部分があるなど諸問題があるが、県の推進事業であり調整・協力しながら進めることは可能。

新知事は公約の中で、県西地域の発展の起爆剤とな

り得るインフラ整備等についていろいろ提示している。これまで以上に整備を要望してまいりたい。

筑西市は先の県知事選挙において前知事を最も支援した自治体の一つ。県西地域全体でその傾向があった。それは県西地域にたいする県の支援を強化してもらいたいという思いの裏返しでもある。

新知事の関心が県北へ行くことは支持したいが、やはり県西に引き寄せるために県西地区の期成同盟活動の強化は必要である。



認定看護師の確保について

小島質問：認定看護師とはどういう資格か、その確保の必要性について伺いたい。

部長答弁：看護師として5年以上、日本看護協会による615時間の教育の条件のもと認定審査に合格することで取得できる資格。認定看護師活動の実績と研修をつづけて5年毎に更新。

質問：大変重要な資格と理解します。西部メディカルセンター開院時では、どれほどの認定看護師を確保する予定か。

答弁：特に定めてはいない。現在両病院には4名の認定看護師が配置されているが、西部メディカルセンターの機能を高めるためにはさらなる人員確保が必要であり今後も養成、採用に努めてまいりたい。

質問：今後資格を取ろうとしている看護師に対する支援、すでに資格を持っている看護師への対処等は、市民病院、県西総合病院ともに行っているのか。

答弁：市民病院では助成金制度がある。西部メディカルセンターにおいても取り入れる。県西総合病院については今後検討してまいりたい。